

現代の若者の理想の家庭像

氏名：高野 隼

本論文は、日本における大きな社会問題である少子化や晩婚化・未婚化といった問題の解決の糸口となることを目的とした論文である。この論文を作成した背景としては、晩婚化や未婚化が問題となっている日本において、現代の若者はどのような家庭を理想と考えているのか、男女による考えの違いがあるのかといったことを明らかにするためである。仮説「現代の若者が理想とする家庭像は昔とは異なっている」を明らかにするため、作業仮説①「現代の若者は、サザエさんのような昔の家族形態を理想としていない」、作業仮説②「現代の若者は、男女共に家事や育児を積極的に取り組もうと考えている」、作業仮説③「現代の若者は、性別役割分業意識が弱くなっている」、作業仮説④「現代の若者は、男女平等に教育を受けさせたいと考えている」の4つの作業仮説について検証した。この仮説を検証するための調査として、筆者の友人や知人 50 人に対して Google Form を送信する方法で行った。結果としては、作業仮説①「現代の若者は、サザエさんのような昔の家族形態を理想としていない」では、サザエさんのような 3 世代同居型での生活は理想としていないことは見受けられたが、「両親+子ども 2 人」の標準家族を理想とするような側面も見受けられ、明らかにすることはできなかった。作業仮説②「現代の若者は、男女共に家事や育児を積極的に取り組もうと考えている」では、家事や育児に対して男女共に積極的にやりたいと考える人が多い傾向が見受けられ、現代の若者が家事・育児を積極的に取り組もうと考えていることは明らかとなった。しかし、カイ 2 乗検定から家事については、男性は積極的な傾向が見られたが、女性は消極的な傾向も見受けられたため、一部明らかにできなかった。作業仮説③「現代の若者は、性別役割分業意識が弱くなっている」では、性別役割分業に対して否定的な人が多い傾向にあり、現代の若者の性別役割分業意識が弱まっていることは見受けられた。作業仮説④「現代の若者は、男女平等に教育を受けさせたいと考えている」では、はほとんどの人が男女ともに大学まで教育を受けさせたいと考えているが、わずかであるが男子優先的な意識があることが見受けられた。以上 4 つの作業仮説の検証から、本仮説で設定した「現代の若者が理想とする家庭像は昔とは異なっている」は一部を除き明らかにすることはできなかった。